



学校だより

10月号
横浜市立桜台小学校
令和元年9月30日発行

子どものことがわかる、子どもがかわる

児童支援専任教諭 劔持裕司

甚大な被害を及ぼした台風、予想外の真夏日、季節外れともいえるインフルエンザと子どもたちの安全や健康について考えさせられる日々が続いた9月が終わろうとしています。そして、10月は前期がおわり、後期が始まる節目の月です。

そこで、子どもたちの学習における「意欲の持ち方」についてとり上げさせていただきます。本校の子どもたちが、前期を振り返り、後期から新たな気持ちでよいスタートを切ってくれたらと願っております。

私が数年前に受けた図画工作の指導法研修で学んだことです。それは1年生が描いた絵を見て、どのように指導をするかというものでした。その絵は、「夏休みの思い出」という題で、親子3人が並んで正面を向いて描かれているものでした。その絵を見ると、親子3人のうち子どもの体が一番大きく描かれているのです。一般的な感覚で言うと、疑問に思ってしまうところです。しかし、描いた子の考えを聞くと、体の大きさでその時の楽しい気持ちの大きさを表現したというのです。「僕が一番楽しかったから体の大きさを一番大きくした」ということでした。気持ちという見えないものを見えるようにするための表現だったのです。もし、それを「何で子どもが一番大きいんだ」と笑ったり、「大きさのバランスがおかしい」と言ったりしてしまったらどうだったでしょう。自ら表現しようとする気持ちをなくし、大人が求めるものを作ろうとしてしまうのではないのでしょうか。やはり、指導者として子どものユニークな発想を生かし、伸び伸びと表現できる環境を作り、創造力をつけてもらいたいと思いました。

これは他の学習でも同じです。自ら意欲的に学習して、それが認められず、逆に注意されることの方が多くなると、学習する意欲が減退するものです。周りにいる大人としては、子どもの様子をしっかりと観察し、何をしたいのか、何を考えているのかを汲み取り、それを学習に生かせるようにしたいものです。

私が考えたのは、子どもたちが安心して学習ができる環境をつくる大切さです。自由に表現したことが認められると、次の学習の意欲につながります。逆に否定されるかもしれないという圧迫感の中では結果が出にくいものです。もちろん、プレッシャーの中、結果を出すことも時には必要でしょう。でも、それは次のステップの話です。子どもたちが学習するにあたっては「やりたい」「楽しい」という気持ち大切です。それがあらゆることの原点であり、可能性を広げるものです。そして、その後押しをすることが大人の役割だと思います。

どの子どもにも基本的には、「知りたい」欲求や「認められたい」気持ちはあります。それをなくさないように安心して学習できる環境を私たち大人は子どもたちのために創っていききたいものです。子どもたちは安心して学習できる環境の中では、素晴らしい発想や思いがけない力を発揮するものです。そしてできたことには、ひたすら褒め、できなかったときには励ます。そして時には難しい課題に直面させ刺激を与える。そんな学習環境を本校に関わる全ての方々と一緒に作っていかれたらと考えています。これからも本校に関わる様々な問題はあると思いますが、ご理解ご協力お願いいたします。